

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームななかまど歌志内館1号館	評価実施年月日	平成19年8月8日
評価実施構成員氏名	鈴木尚美・加藤祐子・岡本侑記・石垣美希・峰下悠・林郁子・伊藤めぐみ・湯澤佳彦		
記録者氏名	湯澤 佳彦	記録年月日	平成19年8月15日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域住民の一員としての暮らしが継続できるよう、新たな理念を作っている。</p>		<p>理念に基づき、介護計画を作成し地域に開かれた生活が継続できるようにしている。</p>
<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>申し送りや、ケア会議など話し合いの場を作り課題を通し、実践向け取り組めるようにしている。</p>		<p>毎朝の申し送りにて個別ケア、ケアプランに添った支援が出来るように話し合っている。</p>
<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ななかまど便りを家族や地域に発行している。</p>		<p>2ヶ月に一度便りを発行し、家族を始め地域の人たちには広報にななかまど便りを入れてもらい地域の理解を得ている。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣施設へ行き交流を図り、遊びに来てもらえるよう取り組んでいる。</p>		<p>道の駅や体育館へ行き、交流を図っている。他にも施設前に花壇を作り、その成長を近隣者と共に話しをしたりし、日常的な付き合いが出来るようにしている。</p>
<p>地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入し、行事などにも参加している。</p>		<p>町内の清掃活動や、ラジオ体操などに参加している。他にも敬老会や、忘年会・新年会などにも参加をしている。</p>
<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>町内の清掃活動を通し、住みやすい環境作りをしている。</p>		<p>川掃除に関しては毎年ななかまどで行い、今年も軽トラックを使い2回に分けてゴミ投げをしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	去年の外部評価で改善項目を受けたことを元に取り組んでいる。		去年の改善項目を始めとして、質の向上となるように、日頃のミーティングや会議など伝えている。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に会議を開いている。		活動報告書を作成し、日々の暮らしの様子を理解してもらい、地域との交流が広がるよう様々な助言をもらっている。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	相談や申請書類の提出時など役所に行く機会がよくある。		こちら側からだけでなく、何かあれば役所からも来る機会があり、連携体制が取れている。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護や後見制度についての研修に参加をしている。		日本認知症ケア学会北海道地域部会主催の権利擁護や後見制度の研修を受けている。また役所とも連携をとり話し合いを行っている。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会の設置している。		委員会にて定期的な会議を開いたり、研修に参加したりとし虐待の防止に努めている。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分話が出来る機会を作り、不安のないよう配慮し説明を行っている。		利用契約書や重要事項説明書、金銭代行や食材費についての同意書などの説明を行い同意を得ている。後から不安が出てきたとしても説明が出来るようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>内部者・外部者に関わらず、話をする機会を作り、意見を反映できるようにしている。</p>		<p>運営推進会議や町内の婦人部との交流など、入居さんが直接話せる機会を作っている。</p>
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月、介護記録や生活の様子が分かる写真、金銭管理の帳簿など郵送している。</p>		<p>お小遣いの使用時、病院受診や体調の様子、買い物や職員の異動など必要に応じて面会時に話したり電話連絡をしたりしている。</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>普段から、面会時や電話など話をする機会を作り意見を聞きやすいようにしている。</p>		<p>日常的な話しの中で、さりげなく意見や不満が聞ける様にしたり、他の苦情機関が分かるようにポスターを貼ってある。</p>
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>定期的に、ミーティングや個人面談など行っている。</p>		<p>職員の意見を聞く中で、必要に応じ可能な限り前向きに反映させている。</p>
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>状況変化の予測がある、必要がある等のことがあれば話し合っている。</p>		<p>勤務時間の調整や、新規スタッフの調整など必要に応じ行っている。</p>
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動や離職などあれば前もって説明し、職員同士の引き継ぎを行っている。</p>		<p>居室担当者をメインとサブの2名にし、異動や離職による入居さんや家族へのダメージが最小限になるよう配慮をしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内外での研修会の案内や、参加の呼びかけなど、研修への参加機会を作っている。		研修資料や講習報告書など全職員が閲覧できるようになっている。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	ネットワーク作りをし、質の向上に取り組んでいる。		認知症ケアネットワークや空知管理者連絡会、計画作成担当者部会、ケアマネージャー研究会などの研修を通しての交流があり、質の向上に取り組んでいる。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者はよきスーパーバイザーとして悩みや相談事など聞く機会を作っている。		職員の要望や意見を反映し、働きやすい環境を整えている。残業のないようにし、休日をしっかりと休み、メリハリのあるようにしている。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	個別面談や勉強会等を行っている。		個人の目標設定や目標達成への評価、認知症ケアに対する助言など、現場や勉強会などを通して取り組んでいる。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家庭訪問や施設見学などで面談し、心配事や入居に関しての話を聴いている。		特に不安の強い方は、面談回数を増やし、利用後の話しや、ホームでの生活の様子などを安心してもらえるように伝えている。心配事が解消しなければ無理には入居を勧めない。
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家庭訪問や施設見学などで面談し、心配事や入居に関しての話を聴いている。		困っていることや心配事など聴く機会を作ったり、同じような不安を持っている方がいれば、その話をしたりとし、共感することで少しでも不安が解消できるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	他のサービス利用もできるよう対応している。		他のサービス利用が必要になったときや、その必要性があると考えられるときは、他の施設と連携し他のサービスを利用できるようにしている。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	施設見学にてホームの様子を見てもらったり、家庭訪問をしたりしている。		家族がホームへ泊まりに来たり、入居者さんが自宅へ外泊したりとしています。家族や友人の面会など、可能な限り馴染んで生活できるようにしています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	お互いに助け合い、支え合う関係を築いている。		得意分野を活かせるように、場面設定しながら教わったり教えたりとし、本人にとっての自信の回復や、人間関係が築けるよう配慮をしている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や、電話での連絡を取ったり、入居者さんの様子を手紙に書いたりしている。		入居者さんの様子を手紙に書き知らせている。また行事など家族との交流機会があれば参加してもらい、一緒に取組んでいく機会を作る中で、入居者さんを支えていく関係作りを深めている。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	過去の出来事や家族構成など理解に努め、良い関係が保てるように支援している。		本人や家族から様々な出来事を可能な限り聞きアセスメントをしている。後から思い出したことや、後から分かったことなどあれば追加をしている。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	なじみの人や場所、大切なことなど全職員が把握できるようにしている。		なじみの人との再会や、なじみの場所への外出ができるよう支援し、継続できるように努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者さん同士の人間関係を把握し、食卓の座席や居室など、人間関係が上手くいくように配慮をしている。		調理参加や食器拭きなど協力してできることをしてもらったり、一緒に外出したりとしながら関りが持てるように支援をしている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	相談や面談など必要に応じている。		契約終了後でも気軽に相談してもらうように、また必要に応じて面談なども出来るようにしている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや希望を尊重し把握に努めている。		思いや願いをアセスメントしている。本人から聞き取れないこともあるので、家族などにも聞きながら把握に努めている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族、関係者から色々な過去の情報を得るように努めている。		入居前には家庭訪問をし、入居後も馴染みのある生活の継続が出来るよう、同じような部屋を出来る限り再現している。本人や家族、関係者から話を聞き、把握に努めている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	介護記録を残し、日々の現状の把握を出来るようにしている。		1日の過ごし方を介護記録し残している。日々の過ごし方や状態の変化などの申し送りは記録として残し、日々の変化の把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族から要望を聞き、職員の意見も反映した介護計画を作成している。		ケア会議にて意見を出し合ったり、現に作成してある介護計画では、毎日のモニタリングにて介護計画の評価を行ったりとし、職員からの意見が反映できるようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態の変化や見直しが必要があれば、必要に応じ行っている。		本人や家族、関係者などから話を聞き、適切なサービス提供が出来るように努めている。またニーズやサービス内容が現状と合っているのか介護記録やモニタリングなどを見て、現状の把握に努めている。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の介護記録や介護計画のモニタリングなど行っている。		日々の記録がアセスメントであり、現状の把握をすることで、現状に即した介護計画の見直しに活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	必要に応じ柔軟な対応が出来るように努めている。		必要に応じて、病院受診や買い物、ドライブなどの付き添い、送迎支援をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	各関係機関の協力してもらい支援をしている。		町内会やSOSネットワークに加入している。ボランティアによる歌や踊りなどの協力を得ている。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他のサービス利用ができるよう、地域関係者と連絡を取り合っている。		必要に応じ関係機関の担当者と連絡を取り合い、他のサービスを利用できるようにしている。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要性に応じ相談や助言などもらえるようにしている。		地域包括支援センターへ訪問し、必要があれば相談など行い助言をいただきながら、協働している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>馴染みのあるかかりつけ医療機関や、本人や家族が希望する医療機関への受診支援をしている。</p>		<p>定期的な受診の他にも、体調の変化があれば医療機関や家族へ連絡や相談をし、必要に応じ受診をしている。受診後の電話連絡や手紙などで伝えている。</p>
<p>44</p> <p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症専門外来への受診支援を行っている。専門医やメディカルソーシャルワーカーとの連携を取っている。</p>		<p>専門外来の受診や、専門医へ相談をしている。定期的に行っている勉強会にも参加し、専門医との関係作りが出来ている。</p>
<p>45</p> <p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職員を確保し、協力医院の看護師とも連携を取りながら支援をしている。</p>		<p>看護師を中心に入居者さんの健康管理や医療活用の支援などを行っている。</p>
<p>46</p> <p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>早期退院に向けた医療機関との協働を行っている。</p>		<p>医師や看護師、メディカルソーシャルワーカーなど情報提供をし、早期退院に向けた相談や援助方法など話し合っている。</p>
<p>47</p> <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合の方針を出来るだけ早期に関係者で話し合い、共有できるようにしている。</p>		<p>重度化・終末期における意志確認書を作成し、家族の希望や、ホームでの支援方法など話し合っている。</p>
<p>48</p> <p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。</p>		<p>医療機関と連携を取りながら、できること・できないことを見極めチームとしての支援をしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人へのダメージを配慮し、時間を掛け話し合いを行っている。</p>		<p>ダメージが最小限になるよう話し合い、転居後などにも必要に応じて馴染みのある人の面会や可能な限りの支援をし、ダメージ軽減に努める体制作りをしている。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>何気ない言葉掛けや対応でも時として人を傷つけることもあるので、それを徹底しプライバシーが損なわれないよう対応している。</p>		<p>他の家族や外来者に対してプライバシーに関する話を話さないように徹底している。他者の前で介護をしたり、他者に聞こえるような大きな声で話したりとし、自尊心を傷つけないよう配慮をしている。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>思いや希望を引き出し、自己決定が出来るように本人のペースに合わせている。</p>		<p>自己決定がしやすいように、2択や3択の中から選んでもらったり、思いや希望を聞いたりとしている。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者さんの希望を優先し、それにそった支援をしている。</p>		<p>何かしたいことがないか希望を引き出し、その日の体調や気分に合わせて、個別に支援できるよう努めている。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>その人らしい身だしなみやおしゃれの支援をしている。</p>		<p>新しい洋服やおしゃれに必要な物があれば買い物に出掛けたり、理容や美容に関しても希望するお店に行けるように支援をしている。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理や盛り付け、後片付けなど一緒に行っている。</p>		<p>入居者さんのペースに合わせて一緒に行う気持ちを大切にしている。また嗜好調査を行い入居者さんの好みの食べ物を食べられるようにしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好みに合わせて支援をしている。		担当医に相談しながら、食べ過ぎ飲み過ぎないよう、体調に合わせて楽しんでもらえるように支援をしている。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェックパターンを把握し、排泄の失敗が少なくなるよう支援をしている。		排泄チェックパターン表を目安にし、排泄の促しや誘導など行い、失敗による羞恥心や自尊心が傷つかないよう配慮をしている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。		希望する時間帯に入浴できるようにしている。入浴を拒む入居者さんには、家族に協力をしてもらったり、声掛けや入浴支援の工夫を行っている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者のペースに合わせて安眠や休息できるように支援をしている。		寝る前の歯磨きや、洗顔をしたり、パジャマへ着替えをしたり、ゆっくりと眠れるよう支援をしている。寝る時間がそれぞれ違うので一人ひとりに合わせた支援をしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		得意なことや趣味など把握し、場面作りの中でそれを活かしながら、生きがいとなるよう支援をしている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		自分でお金を持っていたり、財布を使って買い物をしたりとすることの大切さを理解しながら、一人ひとりの希望や力に応じてお金を持ったり使ったりと出来るよう支援をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	日常的な外出が出来るよう支援をしている。		散歩や買い物など歩いて出掛けたり車で出掛けたりとしている。外出を嫌がる入居者さんにはホームのすぐ外など近いところでも、なるべく外に開かれた生活が出来るように工夫をしている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	自然な会話の中で希望を聞き出せる様にし、外出の機会を作っている。		暮らしの継続を大切に、本人や家族と相談し可能なかぎり希望を叶えられるように支援をしている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙のやりとりができるように支援をしている。		いつでも電話をしたり手紙が書けるよう一人ひとりの力に応じて支援をしている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居心地よく過ごしてもらえるよう、家庭的な雰囲気作りをしている。		花壇作りをし、外からでも気軽に入れるようにしている。また町内会や婦人部などの協力もあり、馴染みの友人や知人の訪問回数が増えたりしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員が身体拘束のないケアに取り組んでいる。		介護保険法指定基準における禁止となる具体的な行為を研修などを通して、理解した上で日頃の介護でも入居者さんにひと声掛け、スタッフの勝手な判断はしないようにしている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	自由に外へ出られるように配慮している。		外へ自由に出られるように、入居者さんが外へ出て行くのを確認し、スタッフも後から一緒に外へ出て花壇に水をあげたり、近くまで散歩をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>その入居者さんに合わせて、安全に配慮している。</p>		<p>何気ない会話を通して様子を把握し、同時に周囲にも目を向け所存や様子を把握し、安全確認をしている。</p>
<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>一人ひとりの状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		<p>注意の必要な物品の保管・管理に努め、必要があればいつでも使用できるようにし、注意の必要な物品を使用する場合には、側での見守りを徹底し、事故が起きないようにしている。</p>
<p>事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>事故防止のための知識を深め事故防止に取り組んでいる。</p>		<p>勉強会や研修などで勉強し、危険予測をしながら事故防止に努めている。事故が起きれば事故報告書を作成し、ミーティングを行い改善できるようにしている。</p>
<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>		<p>普通救命講習の参加をし定期的な訓練を受けている。</p>
<p>災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>ホーム内での避難訓練や近隣住民への協力を得ている。</p>		<p>ホームでの避難訓練や消火訓練、地域での消火訓練への参加をしている。運営推進会議でも働きかけている。</p>
<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>リスクについての対応策を話し合っている。</p>		<p>リスクに対する対応策を話し合い、介護計画にも反映している。また本人のストレスとならないよう配慮に努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化を見逃さないよう努めている。		血圧・体温測定は朝昼夕行い、必要に応じて測定をしている。食欲や水分摂取量なども把握している。受診が必要であればすぐに対応できるようにしている。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬リストを使用し、薬効や副作用について理解している。		服薬による薬効や副作用を理解し、服薬の支援と状態の変化の確認に努めている。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘の予防と対応に取り組んでいる。		担当医や看護師に相談し、飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔内の清潔保持が出来るようにしている。		食後に歯を磨いてもらったり、促したりとしている。他にも歯科検診を行い、口腔内の清潔保持に努めている。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分量を把握し、栄養摂取や水分確保が出来るように支援をしている。		嗜好調査表を活かし、献立に取り入れ、栄養が偏らず食量や水分量が確保できるように努めている。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRS A、ノロウイルス等)	マニュアルがあり感染予防に努めている。		ホーム内の掃除はアルコールや塩素系の物など使ったり、マスクをしたりとし、感染予防や感染を最小に押さえることが出来るように努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	衛生管理を徹底し新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		食器や調理用器具などは、ハイターなどに浸け消毒を行ったり、雑菌が広がりやすい、台所周りやまな板、包丁などはマメに洗い衛生管理に努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	外から見ても開放感のあるように工夫をしている。		花壇を作ったり、玄関の戸を開けておいたりしている。外から中が見えやすくなっているのでホームの中も様子も分かりやすくなっている。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	生活感や季節感があり、居心地よく過ごせるように努めている。		不快な音や光がないように配慮し、改善点などあればすぐに対応している。居心地の良い共用空間作りを入居者さんと一緒に考え工夫を出来るようにしている。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	居心地の良い共用空間作りの工夫をしている。		居室以外にも、喫煙室や各箇所にくつろげる場を作り、思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居心地よく過ごせるよう本人や家族と相談している。		使い慣れた物や馴染みのある物など用意し、居室への配慮をしている。各入居者さんに合わせた工夫を行っている。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	換気・空調への配慮を行っている。		適度な換気を行い、空気のよどみがないよう配慮し、大きな温度差にならないよう温度計を目安に換気や空調の配慮を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全でできるだけ自立した生活が送れるように努めている。		歩行通路の確保や、必要に応じ手すりの設置など安全に配慮し、可能な限り自立した生活を送れるようにしている。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自信を持ち暮らしていけるようにしている。		出来ること・出来ないことを把握し、今出来ていることを続けていけるように、共同作業を行ったり、見守ったりとし、不安にならないよう工夫を行っている。
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の外回りや空間の活用を行っている。		花壇を活用したり、ベンチに座りくつろげる環境を整えたり、ベランダでも過ごせるように空間の活用を行っている。

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)